

無難にこなすか、個性が出るか～パウエルFRB議長初の議会証言

2018年2月28日(水)

2月5日に就任したパウエルFRB議長にとって初となる議会証言が2月27日下院金融サービス委員会で実施されます(当初28日予定が変更)。3月1日には上院銀行委員会で実施となります。

就任日にいきなり米株が暴落するなど、手荒い洗礼を浴びたパウエル議長。とはいえ、これをパウエル議長の責任にするのは無茶というもので、市場は最初の試金石となる今回の議会証言を注目しています。

基本的にはイエレン前議長の路線を継承し緩やかな利上げ路線の継続が意識される。ただ、先日発表された前回のFOMC(1月30日、31日開催)議事録では年3回の利上げを見越した12月時点に比べて、

短期の景気見通しの強まりから、上向きの緩やかな利上げ軌道が適切になる可能性が高まったと表現。

また、多くの委員の意見として昨年12月に示した景気見通しを引き上げたとしており今後利上げペースが加速する可能性を示唆しています。

こうした状況をパウエル議長が議会にどのように説明してくるのが市場の注目ポイントに。

また、地区連銀総裁時代ははっきりとハト派で、議長就任後もハト派的な姿勢が目立ったイエレン前議長に比べパウエル議長は理事時代中立派として知られており、現状の米景気的好調基調を受けて利上げに前向きになってもおかしくないところ。議会証言という場は比較的前向きな姿勢が見られやすい場でもあり気になるところです。

なお、先週訪日して東京で講演を行ったクオールズ副議長は以外にタカ派的な姿勢を示しました。昨年10月に就任した副議長は、銀行監督が担当ということもありこれまで金融政策への言及があまりなく中立派との見通しが広がっていましたが意外とタカ派な印象も。

地区連銀のFOMC投票メンバーは昨年ハト派の代表格が二人(タカ派が一人)入っていたのに対し今年のはっきりとハト派というメンバーがおらずマスター・クリーブランド連銀総裁とボスティック・アトランタ連銀総裁とはっきりとしたタカ派メンバーが二人いるという状況。

ややハト派と見られるウィリアムズSF連銀総裁も利上げに前向きでタカ派とは言わないまでも中立派に近い状況。(残りのパーキン・リッチモンド連銀総裁は1月に就任したばかりで不明)

以前はハト派といわれていたダドリーNY連銀総裁(こちらは常任で投票権)も昨年後半から利上げにかなり前向き発言を繰り返しておりハト派から中立派にという市場の評価になっていますので昨年まではっきりとしたハト派がイエレン議長含めて4名いたのに対して今年からブレインード理事1人という状況だけにパウエル議長が利上げ姿勢を強めると、一気に利上げ路線が加速する可能性がありそうです。

なお、議会証言に関して本証言のテキストは上院下院で共通であり、先にある27日の下院議会証言が注目されていますが質疑応答はもちろん別々。今年中間選挙を秋に控えているだけに、議員側としても、存在感を示したいところであり厳しい質問が飛ぶ可能性があります。その為、1日の上院での議会証言も要注意です。